

INDEX

【音楽学科】1
 【美術学科】3
 【地域社会学科】5
 【保育科】12

【音楽学科】

■出張講義

申込番号	分野	担当	講義名	講義内容
M-1	実技系 (ピアノ)	教授 谷本聡子	アンサンブルの愉しみ	音楽は皆でも一人でもアンサンブル。室内楽を演奏する上での役割と愉しみを、演奏を交えながらお話します。
M-2	実技系 (ピアノ)	准教授 黒山 映	演奏解釈	多くの音楽家が、同じ曲の同じ楽譜を見て演奏しても、みな違った演奏になるのはなぜでしょう。表情記号の読み方、考え方のちょっとした違いで演奏がどのように変わるのか考えてみましょう。
M-3	実技系 (声楽) 講義系 (声楽)	教授 則竹正人	合唱コンクールへ向けて。	全日本合唱コンクール及びNHK学校音楽コンクールに向けての指導、アドバイス等、更なる技術と音楽の上達への手がかりを伝えて行きます。
			楽しいオペラ	オペラにまつわる話を声楽の先生の演奏を交えて紹介します。
M-4	実技系 (声楽)	教授 三山博司	美しく歌うために ～合唱コンクール対策～	①「声」という楽器の仕組みと響かせ方を学ぼう。 ②美しい発音で歌おう。 ③作曲家の心の中を覗こう。
M-5	実技系 (金管楽器 及び合奏)	教授 井手詩朗	いい音を出そう	本来、どの楽器にも、それぞれに”いい音”が備わっています。その音を出すためには、一人一人のメンバーやバンド全体の特徴や個性に応じた、日常でのトレーニング方法を見つけることが大切です。プロのオーケストラや吹奏楽団での経験を積んだ札幌大谷の教員が、皆さんと一緒に音を出しながら、本物の音を手に入れる方法を考えます。
M-6	実技系 (木管楽器 及び合奏)	講師 河野泰幸	いい音を出そう	本来、どの楽器にも、それぞれに”いい音”が備わっています。その音を出すためには、一人一人のメンバーやバンド全体の特徴や個性に応じた、日常でのトレーニング方法を見つけることが大切です。プロのオーケストラや吹奏楽団での経験を積んだ札幌大谷の教員が、皆さんと一緒に音を出しながら、本物の音を手に入れる方法を考えます。

M-7	講義系 (音楽概論・ 音楽史)	教授 千葉 潤	音の不思議 遊びながら学 ぶ音の仕組み	物理現象でもあり、音楽の基礎でもある 「音」は、不思議な魅力をもっています。 ばね電話やグラスのハーモニカ等での実 験を通して、音の謎に迫ります。
			吹奏楽の歴史と文化	身近に接している吹奏楽や管楽器・打楽 器の生い立ちを知っていますか。面白い 格好をした過去の楽器や、様々な器楽合 奏の例を辿りながら、吹奏楽の誕生や楽 器の変化を振り返ってみましょう。
M-8	講義系 (作曲)	准教授 小山隼平	もう BGM とは呼ばせない	映画やテレビを見ていると、あるシー ンに音楽が流れたりしますね。だいたい音 楽はシーンの内容に「合わせて」付けら れると、多くの人が考えます。でももし、 音楽の方が主導権を握るとしたら？ た だの BGM にはならない「付随音楽」の力 を、選曲をしながら感じていきましょう。
M-9	講義系 (音楽療法)	准教授 高田由利子	音・音楽のもつコミュニケー ションの力について	日常において、私たちは多様なレベルの コミュニケーションを経験します。自分 と向き合うこと（イントラコミュニケー ション）と他者とやり取りすること（イ ンターコミュニケーション）の二つのレ ベルを非言語媒体としての音・音楽を使 って体験し、音楽の文化・社会的役割に ついて考えてみましょう。

【美術学科】

■出張講義

申込番号	分野	担当	講義名	講義内容
A-1	講義 (デザイン)	教授 森田克己	大学で学ぶデザイン、 社会におけるデザイン	モダンデザインの歴史を踏まえて大学で学ぶデザインについて解説します。さらに、具体的なデザインの事例を通し社会におけるデザインの理解を深めます。
A-2	講義	教授 川口 浩	自由な発想と多彩な表現を 目指して	視聴覚機器を使用し、高校生とほぼ同年代の多数の作品を見て、作品内容を解説し、取り組み方や「創ること」を考えます。
	実技		油彩基礎	油彩の絵の具や用具の使用法、描画の基本的な手順を理解し、物の見方と捉え方を学びます。
A-3	講義	教授 松村 繁	偶然性が喚起するもの	様々な作品の中から、偶然の効果を生かして制作している作家を取り上げます。彼等がどの様にして、画材の様々な表情を引き出し、その効果と自身の内面世界をつなげて制作しているのかを探っていきます。
A-4	講義	教授 今 義典	コンテンポラリーアートの 最前線	世界各国の最先端芸術を動画や写真を交え、分かりやすく解説していきます。
A-5	講義 (美術教育)	教授 平向功一	わたしたちは何を描いて 成長してきたか	0歳から小学校卒業までの子どもたちの造形表現は単純な身体表現からはじまり心理的な発達とともにどんどん変化していきます。この講義では実際の子どもの絵を見ながらその発達過程について解説します。また世界中の子どもたちの絵を紹介します。
	実技		琳派にふれる	琳派とは伝統的なやまと絵の手法を洗練させ、明快な構図と華やかな色彩で描かれた装飾性の高い絵画様式のことをさします。 本授業では琳派の歴史を学習しながら金箔を使った古典技法の体験と日本画材を使って簡単な模写に挑戦します。
A-6	実技	准教授 佐々木 剛	デッサン基礎	手を動かして3次元の対象を描くための方法、意識の仕方、見ること、認識することについて学びます。
A-7	講義 (デザイン)	准教授 鳥宮尚道	デザインにできること、求 められること	私たちが身の回りで使う“モノ”のデザインを事例に、デザインがこれまでどのように発展してきた、これから先どのように進化していくのだろうか、という流れを豊富な資料を紹介しながら解説します。
A-8	実技 (映像メディア)	准教授 小町谷 圭	芸術が動きだす	芸術作品は、「時間」や「動き」といった要素をどのように扱ってきたのでしょうか？ 絵画や写真、漫画やアニメなど様々な表現メディアを使って、これまでどのように「時間」や「動き」を表現してきたのか、美術の歴史を学びながら、アニメーション作品の簡単な模作に挑戦します。

A-9	講義 (デザイン)	准教授 島名 毅	「デザインする」ということ	さまざまな場面で「デザイン」という言葉が使われていますが、そもそも「デザインする」とはどういったことなのか。美術はもちろん、普段生活するうえでも役に立つ「デザイン」の考え方について講義します。
-----	--------------	-------------	---------------	--

■学内授業

※本学内での授業となります。

申込番号	分野	担当	講義名	講義内容
A-10	実技	教授 鈴木誠子	エッチング（銅版画）基礎 定員：10～15名 期間：春期、夏期、冬期休暇中 授業時間数：2日間/ 10：00～16：00	銅版画の基礎であるエッチング、アクアチントの技法を学びます。
A-11	実技	教授 松隈康夫	素焼きの土鈴 定員：15～20名 授業時間数：4時間/ 10：00～12：00、13：00～15：00	5cm ³ 程の粘土で土鈴をつくります。粘土の感触と素焼きの素朴なあたたかさを感じてください。作品は乾燥をさせ、素焼き後にお渡しします。
A-12	実技	教授 今 義典	ピンホール写真実習 授業時間数：Aプランは3時間、Bプランは1日6時間を2日間にわたり行います（計12時間）。 場所：プラン A、B とも本学暗室・美術科教室での実習となります。	視覚芸術の原点ともいえるピンホール写真の実習を手軽に行います。既存の箱を使い撮影だけを行うAプランと、カメラの元となる箱を段ボールの展開図から制作するBプランがあります。

美術に関する創作活動の支援をします。

- ・学校に美術の授業や美術クラブがなく指導が受けられない人
- ・どんな画材(道具)を使用したらいいのかお悩みの人
- ・自分の作品を専門の先生に評価をしてもらいたい人

などを支援します。

遠方の方でもメールの画像添付などで作品の指導をいたします

問合せ先 入試広報課

【地域社会学科】

■出張講義

申込番号	分野	担当	講義名	講義内容
S-1	社会学	教授 高橋 肇	社会を生き抜く力としての「社会学的想像力」	社会と時代を生き抜く力を育てるうえで必要な「心の品質(a quality of mind)」について考えます。私たちは生きていく中で、個人的な葛藤やトラブルに直面しますが、個人的トラブルを単なる私的问题として捉えるだけでは、社会を生き抜く力としては不十分です。私的トラブルを公共的イシュー(社会的な問題)として捉えなおすからこそ「社会学的想像力」です。そうした精神の特質について考えます。
S-2	政治学	教授 高橋 肇	家族・地域・企業・NPOを生き抜く力とは?～組織を動かす政治力	人類は、共同性と組織の中を生きる生物種です。家族や地域といった共同性、あるいは企業やNPOといった組織の中で生き抜いていくうえで必要な力はいくつもありますが、この講義では社会的存在としての人間が身に付けておくべき最小限の政治的能力について考えます。
S-3	社会学	教授 梶井祥子	“まちづくり”のための社会学	自分たちの住んでいる<地域>について考えてみませんか? 私たちの生活は地域社会によって支えられています。人口減少が進行するなかで、地域の未来はどうなるのでしょうか。社会学理論を応用しながら、“まちづくり”とは何か、私たちに何ができるのかを考えていきます。
S-4	英語	教授 久野寛之	外来語の中に隠された英語上達の秘訣とリーディング速読術との意外な関係	日本語にはカタカナ英語が氾濫していますが、カタカナ英語で話しているのは、ネイティブの英語話者にわかりやすい英語は話せません。でも、カタカナ外来語には、英語をネイティブスピーカにわかりやすく発音できるようになるためのヒントが沢山詰まっています。例えば、「メリケン粉」は英語らしいアクセントを、「ランドセル」は英語で要注意の舌位置を、「ビードロ」は言語器官が従っている「最少努力による最大効果」の原則を教えてください。そして、この最後の原則はリーディング技能の上達法則にも関係します。ことばの中のこんな意外な関係を紹介していきます。

S-5	英語	教授 柴田晶子	仕事で英語を使えるようになるために	国際化が進み、国境を越えた人や物の交流が盛んになってくる中で、「使える英語」を身に付けることに対する社会からの要請は益々高まってきています。一方で「学校で学ぶ英語は役に立たない。」という声もよく耳にします。実社会で使われている英語と学校で学ぶ英語は、本当に異なっているのでしょうか？道内の社会人を対象にした調査や、海外と取引のある道内企業で使われた英語文書の分析の結果から探ってみたいと思います。
S-6	日本語	教授 平岡祥孝	実用日本語表現	社会生活や職業生活において文章を書く場面が多くあります。二字熟語の漢字の使い方、意味の通る文の作り方、文章作成上役に立つ公式などを、事例を数多く取り上げながら文章力を伸ばしていきたいと思います。また、様々な辞書を紹介して、各々の使い方を説明していきます。手書きの重要性を知ってもらうためにも、楽しくプリント学習で勉強していきます。
S-7	社会学	教授 西脇裕之	防犯まちづくりの光と影	「人を見たら泥棒と思え」。「渡る世間に鬼はない」。あなたはどちらの言葉にリアリティを感じますか。この講義では近年の犯罪と防犯活動についての市民意識を確認した上で、防犯まちづくりを支える環境犯罪論という考え方を解説します。また、防犯まちづくり活動がもたらすプラスとマイナスの影響について受講生と一緒に分析しながら、高校倫理における「幸福と功利」の学習へつなげて考えます。
S-8	社会学	教授 森 雅人	高校生のための観光マーケティング入門	ワークショップ方式によって、観光マーケティングの手順を学びます。アピールすべき札幌観光の魅力を洗い出し、観光客を増やすための戦略をマーケティング・ミクスの視点から整理していきます。ワークショップを進めながら、市場・顧客のニーズを満たす旅行商品・サービスの価値、商品・サービスの価値、商品化について提案に結びつけます。
S-9	社会学	教授 山下成治	モノを計る・心を測る	学校の身体測定では、身長は”センチ”，体重は”キロ”で書かれていたと思います。駅までの距離は”キロ”で、徒歩時間は”分”で表されているので、おおよそどのくらい前に家を出れば職場や学校に着くかがわかります。このようなモノやコトを計る「ものさし」とはいったいどんなものなのでしょうか？ 私達のココロも、同じような「ある原理」に基く物差しをもっていることを実例から確認していきましょう。

S-10	キャリア	教授 和田佳子	高校生のためのキャリアデザイン	将来の夢や、やりたい仕事は見えてきましたか。その夢を実現させるために今取り組んでいることはありますか。まだまだ自分の適性がわからず、先が見えずに不安を感じているという人も少なくないでしょう。そもそも、働いて、どういうことなのでしょう。将来に対する不安を少しでも解消するために、高校生の今、やっておくべきこと・考えておくべきことをキャリアカウンセリングの手法を用いて探ってみます。
S-11	社会学	教授 西浦 功	震災時におけるボランティアのはたらきと役割」(ワークショップ形式)	ここ 20 年で 2 度の大地震に見舞われた日本。非常時の様々な危機を乗り越えるために必要なことは何でしょうか。またその際にボランティアにできることは何でしょうか。本講では、まずこれまでのボランティア活動の歴史を振り返り、社会におけるボランティアの役割を学びます。次に、被災者の方々へのインタビューを基に作られた研修用ゲームに参加しつつ、現場で求められるボランティア的思考の修得を図ります。
S-12	文学	教授 吉岡 亮	福沢諭吉から見る明治の社会	福沢諭吉の『学問のすゝめ』。その書名は聞いたことがあるでしょうが、実際に読んだことがある人はなかなかいないようです。本講義では、この書名だけが有名な『学問のすゝめ』を、ほんの一部分ではありますが、みなさんと一緒に実際に読んでみようと思います。具体的には、福沢諭吉の生涯を簡単に振り返った上で、『学問のすゝめ』の議論をいくつか取り上げ、明治初年に彼が何を考えていたのか、また、彼がそのように考えたのはどのような時代背景であったのかを見ていきます。
S-13	教育	准教授 荒井眞一	内容構成に基づいた授業：農具の発達と生産の増加	教職課程を履修する学生は、4年次に教育実習に参加し中学校あるいは高校で研究授業を行わなければなりません。この研究授業では、内容構成に基づいた授業の展開が求められます。本講座では、江戸時代の農業技術の発達による商品生産の増加について、しょうゆ醸造業を例に挙げ、内容構成に基づいた授業展開についてお話しします。

■講演会

※教員研修や PTA 研修などの講演会へ本学の教員を講師として紹介いたします。

申込 番号	担当	講演会テーマ	講演会内容
SL-1	教授 高橋 肇	「学長」というお仕事	<p>弱冠 46 歳で名古屋音楽大学の学長に就任した経験について語ります。政治学が専門であるにも関わらず、なぜまったく専門の異なる音楽大学の学長になってしまったのか。当時 40 代半ばの准教授であったにも関わらず、なぜ学長になってしまったのか。そもそも学長のお仕事とはなんなのか。</p> <p>学長になるまで、学長になってから体験したこと、学長になってから学んだこと、そして再びなぜ北海道で札幌大谷大学の学長になってしまったのか、などなどについて、語ることのできる範囲内でざっくりばらんに語ります。</p>
SL-2	教授 高橋 肇	マネジメントとリーダーシップ	<p>人間の社会と組織にとって、マネジメントという営みは不可欠であり、極めて重要です。マネジメントとはソーシャル・アートであり、リベラル・アーツの実践です。また、人間の社会と組織を語る際には権力の問題を避けて通ることはできません。リベラル・アーツの重要な構成要素である政治学は、組織内権力の問題を探究するうえで有益な道具を提供してくれます。マネジメントには教養とリーダーシップが必要です。人間の社会と組織において求められるマネジメントとリーダーシップについて語ります。</p>
SL-3	教授 高橋 肇	大学で何を学ぶか～大学と学部 の正しい選び方	<p>偏差値と入試科目だけで大学と学部を選んでいませんか。進路選択は誰もが真剣に悩む人生の通過点ですが、ではどのように大学と学部を選べばよいのでしょうか。私がこれまでに全国各地、津々浦々で見てきた大学教育の実態にも触れながら、大学と学部の正しい選び方について考えます。その際のポイントは、自分に合った専門を選ぶこと、卒業後の就職のことばかり考えすぎないこと、です。大切なことは、「大学で何を学ぶか」です。</p>

SL-4	教授 梶井祥子	若者たちにとっての「結婚」 ～少子化は止められるか～	少子化の主たる原因は、未婚率の上昇にあります。現代の若者世代はどのような状況にあるのでしょうか。彼らの結婚観や家族観はどのように変化しているのでしょうか。家族社会学の視点から考えてみたいと思います。
SL-5	教授 平岡祥孝	大学研究・学部研究	入試内容、偏差値などの表面的な指標だけで大学選択をすることは、入学後のミスマッチの大きな原因の一つです。それぞれの大学のカリキュラムの特徴を把握して、高等学校との学びの接続を意識することが必要です。本講義では、大学教育の実態を紹介しながら、大学選び・学部選びの参考になるような情報をお伝えします。
SL-6	教授 森 雅人	観光社会学入門	いまや 9 億人以上の人びとが世界中を移動（旅）する時代になりました。観光に関連したビジネスチャンスも広がっていますが、観光地（地域社会）は必ずしも観光の恩恵を受けていません。本講義では持続可能性をキーワードに地域社会における観光のあり方について学びます。
SL-7	教授 山下成治	ワークショップ技法の修得	地域社会は人が単位で成り立ちます。けれども、人がいれば社会が起きるわけではありません。感覚や考え、喜び苦しみは一人ひとり違ったものです。そのような「多様性」のある人が紡ぎ合って造った地域の「課題」はどのように解決していけば良いのでしょうか？ 札幌大谷大学地域社会学科には、人の考え方の特徴を知り、これを社会に役立てるための技術体系があります。みなさんとワークショップを開き、一緒に確認していきませんか？
SL-8	教授 西浦 功	震災時におけるボランティアのはたらきと役割	ここ 20 年で 2 度の大地震に見舞われた日本。非常時の様々な危機を乗り越えるために必要なことは何でしょうか。またその際にボランティアにできることは何でしょうか。本講では、まずこれまでのボランティア活動の歴史を振り返り、社会におけるボランティアの役割を学びます。次に、被災者の方々へのインタビューを基に作られた研修用ゲームに参加しつつ、現場で求められるボランティア的思考の修得を図ります。

SL-9	准教授 岡部 敦	高等学校におけるキャリア教育 の在り方について	<p>近年、キャリア教育の推進が盛んに叫ばれており、高等学校では総合的な学習の時間を活用した取り組みが報告されています。しかし、キャリア教育については、明確な定義づけがなされていません。インターンシップや民間企業から派遣される講師による講演会などのイベントに終始している例も多く見られます。また、普段の授業に加えて、新たな業務が付加されることによる教員の負担感なども課題として報告されています。本講義では、キャリア教育とは何か、その経緯と意味を検討し、高校教育における在り方について提言します。</p>
------	-------------	----------------------------	---

【保育科】

■出張講義

申込番号	分野	担当	講義名	講義内容
C-1	入門講座	保育科専任教員	保育者入門	保育者になるための資格の種類と内容、取得のための勉強や求められる資質、就職の動向に関する情報などをお話します。保育者志望の方だけでなく、志望について迷っていたり、進路を決定していない方も受講可能です。内容はご希望に応じて調整いたします。
C-2	保育原理	講師 大澤 亜里	子どもの権利と保育	乳幼児も「人間」であり、人権をもっています。そのため保育の場でも子どもの人権に配慮することが必要です。そこで、「子どもの権利条約」はなぜつくられたのか、乳幼児はどのような権利を持っているのかを学び、子どもの権利を尊重した保育のあり方について考えます。
C-3	心理	教授 星 信子	赤ちゃんとのコミュニケーション	赤ちゃんは人と関わるための基本的な力をもって生まれてきます。生後間もない赤ちゃんの持つ力とその意味を学び、赤ちゃんとのコミュニケーションの大切さについて考えます。
C-4	文化	教授 横田由紀子	児童文化財としての絵本	「絵本」は優れた児童文化財であり、その種類も多数あります。子どもの発達段階に合わせた絵本の選択は、言葉の獲得をうながすなど重要な意味を持っています。赤ちゃん絵本と呼ばれるものや、最近の特徴的なものなど、できるだけ多くの絵本を紹介します。読み聞かせにも挑戦します。
C-5	自然	教授 柘植純一	子どもと自然とのかかわり	最近の子ども達は自然との触れ合いが少なく人工的な物で遊ぶことが多くなっています。幼児期の自然とのかかわりがなぜ大切なのか、自然とかわる体験を通してどのような育ちが期待されるのかについて考えましょう。
C-6	音楽	准教授 松井亜樹	子どもと音楽のかかわり	保育の現場で必要な音楽の専門知識、技術のアドバイスをを行います。実際に歌ったり、手遊びをしたりしながら、具体的に実践します（講義の実施には、ピアノが設置された会場が必要となります）。
C-7	美術	教授 清水郁太郎	美術を通した子どもとのかかわり	幼児のための造形の制作体験を行います。簡単な材料で出来る楽しい工作を体験し、保育における造形指導の一端にふれます。

C-8	運動	准教授 岡 健吾	“子どもが育つ”運動あそび	鬼ごっこ、マット運動・縄跳び・跳び箱、ゲーム遊び等々、子どもたちが楽しみながら心身を成長させるためのプログラムをレクチャー。 体育的指導とは異なる視点から、“あそび”を通して子どもが育つ場を提供します。
C-9	福祉	講師 今西良輔	障がいのある子どもの理解と配慮	私達が生活している地域や建物には、様々なバリアフリーが進められています。そもそも、障がいってなんだろう？バリアフリーってどんなものなのだろう？改めて自分達の日常生活を振り返りながら、障がいとなるものがどんなものなのかを理解しましょう。そして私達ができることはどんなことかを考えてみましょう。

※基本的には札幌市及び近郊の学校を対象とします。遠方の場合はご相談ください。